

市長とのかがやきライフトーク

と き：平成20年6月19日（木） 10:00～11:30

ところ：大垣市役所2階第1会議室

団 体：大垣市女性防火クラブ連絡協議会（15名）

テーマ：女性防火クラブ員の活動について



【団体】

中川地区の17自治会で、それぞれ女性防火クラブ員が1・2名ずつ選出されています。毎年、地区運動会のあとに消防署の方から救命講習を受けるなど、地区全体で活動しています。全世帯にチラシを配布し、より多くの方に、講習を受講してもらい、少しでも救命や防災意識を向上させてもらうよう努力しています。また、北消防署の見学や講習、子供や高齢者が夜回りをするなど、各町内ごとに独自の活動も行っています。

【団体】

川並地区では、定期的に消防団員に、ポンプの使用方法や点検などの指導をいただき、災害に備えている。自治会・老人クラブ・女性防火クラブ員が集まり、災害時の米の炊き方や救命講習などの活動をしています。

【小川市長】

救命講習を皆さん受けられていて、頼もしいですね。AEDが普及していますが、運がよかったのか、今まで1度も使用されていないそうです。

【団体】

女性防火クラブにおいても、蘇生方法などを中心としたAEDの講習を受けました。北地区では、婦人会組織のなかに女性防火クラブがあり、その中で、いろいろな分野に別れ活動しています。昨年は、消防本部で司令室など最新の設備も見学させていただきました。

【小川市長】

消防本部では119番通報があると、電話番号からすぐに場所が特定できるようになっており、瞬時に出動できる体制が整えられています。10月からは、GPS機能により、携帯電話からの通報にも対応できるようになります。

【団体】

安井地区女性防火クラブは平成10年に結成され、活動時には緑のエプロンを着用し、女性防火クラブをPRしています。主な活動は火災訓練などですが、消防団員の操法大会などの応援も、緑のエプロンを着用しています。

制服の代わりに、地区ごとに様々な色のエプロンを着用して活動しています。

【小川市長】

消防団員などの男性は制服がありますので、女性防火クラブも作った方がいいかもしれませんね。

【団体】

木戸町では、7名の女性防火クラブ員が定期的に防火水槽や消火器などの点検をするとともに、2ヶ月に1度ですが、可搬ポンプの点検を男性の方々にもお手伝いをいただき点検を実施しています。また、自治会内では自主防災組織の一員として、お手伝いをしています。

【団体】

自治会単位に組織されている自主防災組織はとても重要であると思います。そのなかで、女性がどのように関わっていけるのか考えてみると、女性は家にいることが多く、地域内でのネットワークもあるため、地震などの災害時にはすぐに独居のお年よりのところなどへ、駆けつけることができるが、災害時に何ができるのか、何が必要なのかを考えています。

7月には防災訓練があり、女性防火クラブとしてはミニポンプと炊き出しを担当しますが、その時には薪で炊き出しに挑戦する予定です。また、ミニポンプの操作を女性ができるのかという意見もあるが、万一の災害時には消防隊が

到着できないかもしれませんので、女性でも操作できるようにということで、訓練をしています。また、女性防火クラブ員だからやるのではなく、老人会や自治会とのつながりを持ちながら、地域で安全を守っていきたいと思います。

【小川市長】

みなさん消防活動などに励んでいらっしゃるようですが、男性消防団員が水防団になるように、女性防火クラブ員のみなさんは水防活動などはやられないですか。

【団体】

男性が水防でがんばれるように協力と応援をしています。川並では、分団長さんから声をかけていただきましたので、月に1回男性の水防団員といっしょに訓練をすることになりました。

【団体】

私の地域は、小さな町内ですが、女性部全員が女性防火クラブ員となっており、どこにどのような方が住んでいるかを、皆さんが知っていますし、緊急時に高齢者のところへすぐに駆けつけることができるのは私たちですので、近所とのふれあいを持ちながら、緊急時の連絡先なども分かるような体制を整えています。

地域も家庭も私たちが守るという意識を持ち、食料を備蓄したりするなど、女性としての役割を果たし、常に災害に備えることが大切であると思います。

【小川市長】

コミュニケーションがよく、地域としてまとまっていますので、災害時にも助け合うことができ、高齢者の方も安心していただけるので、大変ありがたいことです。

【団体】

大垣市の災害時のハザードマップを作られましたが、傍に避難所がなく、学校などの大きな避難所は遠いため災害時にはどこに避難をすればよいのか迷います。また、災害時の要援護者台帳などをもとに、避難誘導を行わなければならないのですが、短時間でどこに避難させればいいのか、それをどのように決めるかも考えないといけません。

【小川市長】

公共施設など大きな避難所から遠い方などは、近くの小さな避難所に避難することになりますが、町内の集会所などは耐震性から大丈夫かどうか分かりませんので、耐震性に優れた学校に非難していただくことになると思いますが、避難所が足りなくなることは十分に考えられますので、今後も、検討していかなくてはならないことだと思います。阪神淡路大震災のときも地域の防災力やコミュニケーションが威力を発揮したそうですので、地域でがんばっていただきたいと思います。

【団体】

女性防火クラブ員のできることは、消防団員の方々の後方支援、初期消火、救急隊が到着するまでの応急処置などの講習を受けています。テレビなどで事件の報道がされると、あの場で何ができるのか。などと考えながら、何度も講習を受け訓練をしていくことが大切であると考えています。

【小川市長】

1回の講習でマスターできませんので、何回も訓練して緊急時に備えていくことが大切ですね。

【団体】

AEDが設置されているのは学校などの公共施設だけであるため、公共施設が休みのときはどうしたらいいのかということが話題になりました。

【小川市長】

そうですね、学校の生徒たちのためだけのAEDになってしまいますよね。様々な施設に設置されていくことが理想ですね。

【団体】

私の地域はクラブ員が減少し、活動がほとんど行われていませので、今後どうなっていくかが心配です。

【小川市長】

出初式では多くの女性クラブ員の皆さんが参加されていたので、活動も活発に行われていると思っていました。地域の事情によるものと思われませんが、多くの皆さんに参加していただけるとありがたいです。

【団体】

私の町内の自治会では、災害時の必要な機材や食料などを備蓄していますが、大垣市としても備蓄されているのですか。

【小川市長】

大垣市では赤坂町の防災センターに備蓄されています。また、災害では予想外の事態に陥ることも考えられますので、長浜市、伊賀市、彦根市、鯖江市と防災協定を締結していますので、救援物資を提供していただくことになっています。反対に、協定を結んだ地域で災害が発生すれば大垣市が物資を輸送することになっています。さらにガソリンスタンドの石油商業組合とも協定を結び、物資の備蓄をいただいています。

【団体】

阪神淡路大震災では、給水車が足りずに、水が不足したため、災害時に井戸を提供していただける方々のリストが作成され災害時には情報提供していただける体制が整備されたそうです。大垣市は豊富な地下水があり、井戸がある家は多いと思いますので、大垣市でもリストやマップなどを作成していただけると思います。

【小川市長】

大垣市においても給水車を購入する予定にはなっていますが、災害時には市内を回ることになりますが、足りなくては困ります。大垣は水の都といわれ自噴水もあり、中心市街地でも井戸はたくさんあるのではないかと思いますので、災害時の井戸マップなどは、特に検討していく必要がありますね。すばらしいご提案をいただき、ありがとうございました。